

令和 6 年11月 26日

常滑市議会議長 加藤 久豊 殿

文化施設等あり方検討調査特別委員会

委員長 伊 奈 利 信



文化施設等あり方検討調査特別委員会中間報告書について

本特別委員会は、常滑市民文化会館及び中央公民館が 1983 年の竣工から 41 年がたち、図書館を含む文化施設の複合化を計画していたが、市が令和 6 年 3 月に複合化にこだわらず、市民の意見を聞きながら検討する方針に転換したため、議会としても検討すべき重要な課題と捉え、調査研究に努めるとともに意見の集約を図るため、令和 6 年第 3 回市議会臨時会において設置され、これまでに、様々な視点から積極的に調査・検討し、議論を深めてきた。

文化施設等の取組方針については、「常滑市公共施設アクションプラン」において位置づけされており、令和 6 年度は、前期アクションプランの最終年度になることから、本特別委員会の意見も踏まえ、中期アクションプランの改訂を進めてもらうよう、委員会として中間検討結果を市に対して提言するために、別紙のとおり報告をする。

文化施設等あり方検討調査特別委員会 中間報告書

1 これまでの調査研究の経過について

【令和6年5月15日】

正副委員長の選任が行われ、委員長に伊奈利信委員を、副委員長に森下雅仁委員を選任した。

【令和6年6月25日】

「文化施設等に関する方針の変遷について」、「青海・南陵公民館利用者へのアンケート結果について」、「今後の検討スケジュールについて」の説明を執行部から受け、活発な質疑が行われた。

【令和6年7月30日】

「近年の施設整備に係る入札状況及び文化会館・中央公民館の改修費用について」、「図書館非利用者アンケート結果について」、「青海・南陵公民館及び文化会館の現地確認について」の説明を執行部から受け、活発な質疑が行われた。

【令和6年8月19日】

豊橋市まちなか図書館を視察し、現状について調査した。

【令和6年9月3日】

「文化施設等の在り方検討に関するアンケート調査結果・図書館関係団体ヒアリング結果総括について」、「図書館のあり方の変化と役割の変遷について」、「青海・南陵公民館及び文化会館の現地確認について」の説明を執行部から受け、活発な質疑が行われた。その後「常滑市にふさわしい文化施設について」を題材としたワークショップを実施した。

【令和6年10月4日】

岐阜県多治見市文化会館（バロー文化ホール）を視察し、現状について調査した。

【令和6年10月11日】

青森県つがる市立図書館（商業施設内）を視察し、現状について調査した。

【令和6年11月8日】

「文化施設等のあり方検討調査を踏まえた今後の取組方針（案）について」の説明を執行部から受け、活発な質疑が行われた。

【令和6年11月26日】

これまでの調査研究結果をまとめ、中間報告書の文案を審査した。

2 まとめ

常滑市の文化施設等については、「常滑市公共施設アクションプラン」により、図書館を市民文化会館・中央公民館と複合化して整備する計画としているが、計画策定時から市の状況等も変化している中で、今後、どのような方針で進めていくのかが課題となっている。本特別委員会では、様々な視点から積極的に調査・検討し、議論を深めることができた。

以下、中間検討結果を市に対して提言する。

（１）複合化について

文化施設の複合化にかかる市民アンケート調査では、必ずしも複合化が望まれているのではなく、「経費的にメリットがあるもの」の意見の割合が最も高かった。他市町の先進事例及び（試算した）整備費等を踏まえ、「複合化」にかわる「単独整備」を軸に、引き続き、財政負担に影響が少ない手法の検討に努められたい。

（２）新図書館について

市民アンケート調査において、図書館に求めるものは「1日ゆっくり過ごせる空間」、「行くのに便利な場所」の意見の割合が高かった。また、市民からは、1日でも早い新図書館の整備を強く望む声が届いており、今後の効率的な公共施設の管理・運営・スリム化(官民連携)を念頭に整備費などの経費面に配慮しつつ、市民や関係団体等の理解を得ながら、早期整備に努められたい。

（３）市民文化会館・中央公民館について

現施設の現状と課題について、現地調査の他、市民アンケート調査等を踏まえ、検討を重ねてきた。特に老朽化が進んでいる市民文化会館（ホール）については、現施設の機能維持に大きな財政負担を伴うことから、引き続き、利用状況、施設規模、改築費、長寿命化など、様々な観点からの比較検討を行い、今後のあり方について検討されたい。

以上、文化施設等あり方検討調査に関係する内容については、今後も議会に逐次報告してもらうことをお願いし、本特別委員会としての中間報告とする。